

ヨーガの起源 (2)

仏教とヨーガ・サーンキヤとヨーガ・最初の体系化されたヨーガ・ヨーガに関連する項目：
ヴェーダーンタ、不二一元論、バガヴァッドギーター、adhyātma 哲学、後期ウパニシャッド

仏教とヨーガ

仏教とヨーガ

yogakkhema, yogāvacara, yogācāra

- “yoga” の意味が仏教文献では繫縛（否定的）の意味を取る
- yogakkhema (yogakṣema のパーリ語形) が yoga からの平穩という意味となる（ヴェーダなどでは yoga と平穩）
- yogāvacara が修行に勤しむものという意味で用いられる（ブッダ自身の形容詞としても）
- それに対応するサンスクリット形 yogācāra という語が現れる
- 大乘仏教系の一派として成立する
- その派の重要な教典 Yogācārabhūmi の成立

ブツダとヨーガ

Lalitavistara, Yogācārabhūmi

- 『ラリタヴィスタラ』 (サンスクリットで現存するシャカムニブツダの伝記)
 - 修行中の菩薩 (ブツダになる前の修行中のゴータマ) の瞑想との関連で
padmāsana, gandhāsana(?), ratnāsana(?), bhadrāsana, siṃhāsana, paryāṅka
- Yogācārabhūmi 瑜伽師地論
 - Savitarkasavicārādibhūmi
 - Samāhitā Bhūmiḥ
 - dhyāna, samāpatti, samādhi...

関連項目：ヴェーダーンタ, 不二一元論,
バガヴァッドギーター, **Adhyātma** 哲
学, 後期ウパニシャッド

項目1：ヴェーダーンタ哲学

ヴェーダーンタ哲学

基本事項

- ウパニシャッドに関する考察
- アートマンとブラフマンの同一性を認める
- 根本教典は『ブラフマスートラ』・バーダラーヤナを著者とすることが多い
- 学派による詳細での相違
- Advaita
- Viśiṣṭādvaita
- Dvaita
- 18世紀までには最も有力な哲学潮流となる（シヴァ系もしくははヴィシュヌ系のヒンドゥー教諸派と結びついた多くの系統）

補遺

いくつかの混乱しがちな点について

- 一元論, 二元論, 多元論
- ヴェーダーンタにおける advaita と dvaita の違いは一元論と二元論という違いではない
 - アートマンがブラフマンと完全に一つなのか, それともアートマンは個人にそれぞれあるのか (複数あるのか) という違い
- 一方, ヴェーダーンタの外にも advaita はあり

Advaita

ウパニシャッドの内と外

- Bṛhadāraṇyaka-Upaniṣad に登場するヤージュニャヴァルキヤは advaita と呼べる
- しかし、彼はヴェーダーンタの学者ではない（ヴェーダーンタの学者が研究する対象）
- 同じように、ウパニシャッドは、最近まで（16世紀頃？）作成され続ける。ヒンドゥー教的、有神的なウパニシャッドは大量に作られる
- しかしそこで表明される思想をヴェーダーンタ思想ということとはできない（ヴェーダーンタ思想はウパニシャッドに表明された思想の解釈学。ウパニシャッドそのものがウパニシャッドの思想を解釈することはない）

ではウパニシャッドやマハーバーラタに表明される思想はなんと呼ぶべきか：アートマンについての哲学， すなわち Adhyātma 哲学

項目2：バガヴァツドギーター

基本事項

何？どこ？いつ？

- マハーバーラタの一部
- ではマハーバーラタとは？
 - インド版平家物語（平家物語がマハーバーラタに触発？）
- バガヴァッドギーターが告げられる場面
 - 最大の決戦の直前。主人公アルジュナが怯むところをクリシュナが叱咤する
- 教えの中身
 - それぞれがやらなければならないことをやるべき
 - それがヨーガ

項目3：サーンキヤとヨーガ

サーンキヤとヨーガ

サンスクリットの複合語 *sāṃkhyayoga*

- ペアとしてはマハーバーラタが最初期
- 同じに見える二つの複合語
 - 一つは「*sāṃkhya* と *yoga*」
 - もう一つは *sāṃkhya* 的な *yoga*

- はじめとサーンキヤとヨーガがペアとして出現

- 「理論」と「実践」

- 各種のヨーガ

- karmayoga

- jñānayoga/sāṃkhyayoga

- saṃnyāsayoga

- vibhūtiyoga

- bhaktiyoga

- dhyānayoga

- buddhiyoga

哲学学派としてのサーンキヤとヨーガ

ずっとあと

- バガヴァッドギーターを除く（バガヴァッドギーターより遅くに成立）マハーバーラタではサーンキヤはヨーガ（修行）の一つ
- ヨーガ学派という言い方は19世紀に H. T. Colebrooke によって固定？
- ヨーガ学派は多くの場合、長期に渡り Pātañjala 派とも呼ばれる
- ブラフマストラはサーンキヤ哲学とヨーガ（哲学）を近いものとして扱う

サーンキヤ哲学とは

サーンキヤを他と区別する点

- 世界の展開論は adhyātma 哲学（仮称）
- プルシャとプラクリティの二元論
- 3グナ説
- tanmātra の存在

ヒラニヤガルレバのヨーガ

ヒラニヤガルバとヨーガ

伝説上の最初のヨーガの教師

- 多くのテキストでヨーガを最初に教えたものとしてヒラニヤガルバが教えられる
- 対局にはサーンキヤを教えたカピラ
- ヒラニヤガルバのヨーガとして伝わるテキストは現存しない
- しかし、あちこちに共通のヨーガの教えの断片が残る
- それらを掻き集めると一つのヨーガの体系が見えてくる

6 aṅga からなるヨーガ

āsana, prāṇāyāma, etc.

- āsana, prāṇāyāma, pratyāhāra, dhāraṇā, dhyāna, samādhi?
 - āsana については仏像などですでに確認
 - prāṇāyāma についてはおそらくすでに pūraka, recaka, kumbaka の3つは名前あり
- pratyāhāra, dhāraṇā, dhyāna はヴァイシェーシカの知覚論をベースに説明
 - indriya (感覚), manas (意識) , artha (対象) , ātman (アートマン) の接触から知覚
 - pratyāhāra は感覚と対象の接触を断つこと
 - dhāraṇā は感覚と意識の接触を断つこと
 - ...
 - ヨーガをアートマンと意識のみの接触・結合 saṃyoga と定義？

ちなみに、ヒラニヤガルバとは

金の卵もしくは金の胎

- リグヴェーダ (10.121) に登場
- 後の神話で世界の初めにあった黄金の卵とも
- マヌなどで世界の始めにあったとされる svayambhū とも同一視
- さらに、ブラフマー神の別名とされることも
- 人名として使われた痕跡はなし